

高志高等学校ホームページ「入学を希望する皆さんへ」

これまで中学校に出向いて高志高校について説明した際や、令和3年10月2日（土）に開催された「高志高校説明会」に寄せられた質問等を中心に、Q&Aを掲載します。

合わせて、当日の感想から、いくつかを抜粋して紹介します。

たくさんあるので、項目別の見出しを参考にして、知りたい項目から目を通すなどして、お読みください

1 求める生徒像・新学科・特色ある教育活動

Q1 どのような生徒の入学を求めていますか。【更新】

A1 高志高校は、「克己、創造、敬愛」の校訓のもと、「国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる知徳体の調和のとれた人材の育成」を教育目標に掲げています。

そうした校訓や教育目標に共感し、自分もそうした人になりたいと思っている生徒に入学してほしいと考えています。

克己

- ① 自分と向き合い、成長するための努力を続ける人
- ② 困難な中でも肯定的側面を見つけて自分を高める人

創造

- ③ 新しい価値や文化を生み出す人
- ④ 真理の探究、社会問題の解決に挑み続ける人

敬愛

- ⑤ 他者と協働して、社会が抱える問題を解決する人
- ⑥ 多様性を理解し、文化の発展、世界の平和に貢献する人

そのためには、目的意識が大切です。将来社会に出たときにどのようにして社会に貢献したいのか、そのためのプロセスとして、高校や大学でどのようなことを学びたいのか、どのような高校生活、大学生活を過ごしたいかなどについて、中学のときから考える習慣をもつと良いと思います。

なお、令和5年度入学生から実施する「特色選抜」について、Q60において概要を説明しています。

Q2 「探究創造科」という専門学科は、どのような学科ですか。【新規】

A2 高志高校は、令和4年度の入学生から、「探究創造科（人文創造科・理数創造科）」として、生徒を募集します。

「様々なことに興味・関心を抱き、試行錯誤しながらも人として成長し続けようとする心構えや態度を表す「探究」と、本校が校訓の一つに掲げている「創造」（新しいものや文化を創るほか、今ある問題を解決しようとする行為）を学科名に掲げ、未来社会・持続可能な社会の創り手となるクリエイティブなリーダーを育てていきたいと考えています。

その実現のため、進学型単位制教育課程による教科学習、SSHやSGHの探究活動、学校行事や生徒会活動、部活動等、学校生活の全体をとおして、生徒の主体性を育てる教育活動を展開していきます。

Q 3 他校にない高志高校の特色ある教育活動は何ですか。【更新】

A 3 高志高校は、高志高校と藤島高校の学校群選抜制度が廃止された平成16年度の頃から、様々な新しい取組を導入してきました。主な教育活動としては、以下のようなものがあげられます。

高志高校が県内で初めて実施

- ・スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH） 平成16年度から

これまでのところ県内で高志高校だけが実施

- ・スーパーグローバルハイスクール事業（SGH） 平成26から平成30年度
- ・公立併設型中高一貫教育 平成27年度から
- ・選択型研修旅行 平成28年度から
- ・進学型単位制教育課程 平成30年度から
- ・ワールドワイドラーニング事業（WWL） 平成31年度から
- ・SGHネットワーク事業 令和3年度から

このうち、併設型中高一貫教育については、教育課程の特色がよく知られていますが、学校生活の面でも特色があります。普通の高校は、高校に入学すると1年生、つまり最下級生になり先輩しかいません。しかし、高志高校に入学すると、そこに3学年の中学生という下級生がいます。年齢差の大きな集団の中で、リーダーシップやフォローシップを発揮する経験を積むことができます。

SSHは、高志高校のほかに藤島高校、武生高校、若狭高校でも取り組んでいます。WWL、SGHは、福井県では高志高校だけです。金沢大学附属高校を拠点として、石川県立金沢泉丘高校、富山県の高岡高校、福井県の高志高校がネットワークを形成して、グローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

2 教育課程、学習指導

Q 4 進学型単位制教育課程とは、どのような教育課程ですか。

A 4 将来の大学受験に備えて、自分の進路実現のために必要な教科・科目を選択できるように、多くの選択科目を配置した教育課程を「進学型単位制教育課程」と呼んでいます。

す。学年が上がるごとに選択科目が増え、特に3年次には、進路志望に応じて、20単位分以上の「選択科目群」の中から選択できます。

このときに、効率よく学習できるよう、理系、文系とも3つの類型（類型a、b、c）に分かれ、教科・科目を選択して、学習することになります。

※類型については、Q16を参照してください。

Q5 進学型単位制と書いてありますが、もし単位を落としてしまったら進級できないのでしょうか？

A5 小学校や中学校と違い、高校には進級・卒業に必要な出席日数や単位の修得に関する条件があります。必履修科目（高校を卒業するまでに必ず受けなければならない授業）の履修が認められない場合は、進級・卒業できません。これは、高志高校に限ったことではなく、日本全国の高校でも同じです。その場合を除けば、1単位でも落としたり（履修、修得が認められなかったら）進級・卒業できないというようなことはありません。

高志高校では、ホームルーム活動を除いた3年間の全授業の合計単位は102単位（令和3年度以前の入学生）もしくは96単位（令和4年度以降の入学生）です。このうち、12単位を超える単位を修得できない場合は原級留置になり、進級・卒業できない決まりになっています。

Q6 教育課程表を見ると、「社会」が「〇〇総合」とか「公共」など今までにない科目になっていました。教育課程はどのように変わりますか。【新規】

A6 令和4年度の入学生から新しい高等学校指導要領が本格実施されます。今回の改定において、地理歴史科では「地理総合」「歴史総合」が、公民科では「公共」が必履修（必ず学習しなければならないこと）科目となります。また、国語科でも「国語総合」から「現代の国語」「言語文化」となるなど、文系の教科を中心に科目名が変更され、学習内容が新しくなります。また、「情報1」が新たに「大学入学共通テスト」に出題されるようになるなど、令和4年度の入学生はある意味で時代の変わり目に相当する学年とすることができます。

Q7 1、2年生は高入生と内進生が同じ授業を受けることはないのでしょうか。

A7 数学と理科については、内進生が高校科目の先取りをしている関係で、異なる授業を受けています。

1年次には体育や芸術で同じ授業を受ける場合があります。2年次でも、体育の授業で同じになる可能性があります。2～3クラスをまとめて講座を組み、同時に学習するためです。

学年が上がるにつれて、理科や地歴公民の選択科目等で同じ授業を受けることが多くなります。

Q 8 内進生に比べて高入生は授業進度が速いのではと思いますが、補習等のフォローがあるのでしょうか。

A 8 高志高校は、中高一貫教育を始める前から、速いスピードで授業をすすめる高校でした。数学や理科の一部の科目を除いて、多くの教科・科目において2年次までに教科書の学習内容をほぼ終わらせてしまいます。

これは多くの教科・科目を一定のレベル以上学習して受験する必要がある国公立大学入試、難関私立大学入試に対応するためです。

なお、授業進度が速いことを理由とした補習等は行っていません。

ただし、学習に困り感を抱いている生徒に対する個別の学習支援は、責任をもって行っています。

Q 9 高志中学校の生徒は、数学で先取りをしていて、かなり先を進んでいると聞いたことがあります。高校入試で入学した生徒でも追いつくことができるのでしょうか。

A 9 高志中学校の生徒は、数学と理科で高校の内容を一部先取りして学習しているため、数学と理科については、内進生と高入生は異なる科目を学習します。

教科書の範囲の学習が終わると、同じ講座で学習することになります。Q 8でも答えましたが、もともと高志高校では、中高一貫教育を始める前から、早いスピードで学習をすすめていましたので、3年次になると高入生と内進生が同じ講座で授業を受ける場合があります。

一方で、数学や理科など一部の科目では、最後まで異なる授業を受けるという場合もあります。内進生は早く教科書が終わった分、演習問題や発展的内容を学習する時間が多く持てます。そういう意味では、理数系の教科・科目の学習に関しては、内進生が大きなメリットを持ち続けることになります。

Q 10 自分自身も上の子ともも理数科の卒業生でした。「理数創造科」の教育課程は、かつての理数科の教育課程のように見える。その理解でいいでしょうか。当時は、時間数の足りない分を補うためにゼロ限目がありましたが、そのようなことがありますか。

また、子どもはSSHの課題研究で、企業と一緒に相当深いところまで研究したようだが、そうした研究は続いていますか。

A 10 2年次に「理数創造科」に進級する場合（理系を選択した場合）は、以前の理数科とよく似た教育課程で学ぶことになります。当時と異なるのは、理数科の当時は、高校受験の際に学科を選んで高校入試を受験したのに対して、来年度以降、「理数創造科」（1年次は探究創造科）の場合は、1年次の後期に、高校での学習内容、将来の進

学希望等のほか、各自の目標や適性などを判断して、学科を選択できるようになっているという点です。

また、SSH事業における企業との連携による教育活動は現在も続いています。企業と連携した課題研究については、SGH事業の中で商品開発や問題解決の提案等を行うグループがあります。

Q11 ICTを使った学習が盛んに行われているようですが、自宅でPC等の購入は必要ですか。

A11 福井県では、タブレット端末（Chromebook・クロームブック）が1人1台貸与されています。本校では、担任に申し出ることによって、Chromebookを自由に持ち帰ることができますので、自宅でPC等を購入する必要はありません。ただし、Chromebookはインターネットに接続してはじめて使うことができる端末ですので、家庭におけるWiFi環境の整備をお願いしています。なお授業でも頻繁に利用するので、持ち帰った場合は登校時に持参する必要があります。

Q12 補習はありますか。課題の量はどうか。

A12 全生徒を対象に、年8回程度、土曜日の午前中に課外を実施しています。そのほか、数学など一部の教科で、定期考査での成績不振者に対して補講や再テストを行っています。全生徒を対象に、年8回程度、土曜日の午前中に課外を実施しています。

また、希望者を対象に、ハイレベル模試への対応講座等の土曜講座を、年に数回、実施しています。

課題については、日々の予習に加えて、基礎的な知識の蓄積や自宅学習用の教材として、「単語帳」や「問題集」等を配付しています。週明けには、漢字や古文単語、英単語のテストなどが計画的に行われています。

できるだけ、生徒一人ひとりが自主的に学習できる時間を確保するために、共通の課題を減らすようにしています。

Q13 生徒の自習環境はどうなっていますか。どれくらいの生徒が使っていますか、また、3年生が優先ですか、教室で自習してもいいのですか。【更新】

A13 1号館（3年生の校舎）2階に自習室を設けています。早朝から夕方遅くまで、3年生を中心に多くの生徒が使用しています。1、2年生、中学生も使うことができますが、現状は高校3年生がほとんどです。自習室のほか、学習室（1号館2階）、図書館、第2閲覧室（図書館2階）等で、自習することができます。もちろん、各教室でも放課後、下校時刻まで自習することができます。

Q 1 4 塾に行っている人はどのくらいいますか。【更新】

A 1 4 福井県教育委員会が実施する「学習と進路に関する意識調査」の中に、塾に通っているかどうかを尋ねる質問があります。昨年度の高志高校の回答状況は、

高1：約45%、高2：約50%、高3：約60%

でした。学習に集中する時間と空間を確保するために塾に通っている生徒が、一定数いるようです。塾に通っていることで学力が向上したというデータはありません。逆に言うと、塾に通わないことによって学力が向上したというデータもありません。難関大学に合格した生徒の多くは、塾に行っていない生徒でした。塾に行っているか行っていないかではなく、集中して学習に取り組んでいるか否かが大切です。

3 クラス編成、文理分け

Q 1 5 クラス編成は、どのように行っているのですか。【更新】

A 1 5 令和3年度入学生までは、1年次と2年次は、高校入試を経て入学した生徒（高入生）と高志中学校から進学した生徒（内進生）を別クラスとしていました。

なお、令和5年度の入学生から、学年進行で1年次から高入生と内進生を生活クラスで混在させる「混合クラス編成」を導入する予定です。これは、併設型中高一貫教育の趣旨に鑑み、高校での日々の生活において、高入生と内進生の切磋琢磨・交流をいっそう充実させようという取組です。

Q 1 6 文理分けは、どのように行っているのですか。【更新】

A 1 6 令和4年度の入学生から、専門学科「探究創造科（2年次からは理数創造科もしくは人文創造科）」に移行します。従来の文理分けが、学科選択になります。

2年次になると、「理数創造科」（理系）と「人文創造科」（文系）とに分かれます。

3年次になると自分の興味・関心や志望大学に応じて、文系・理系ともに、類型a、類型b、類型cの3つの類型、つまり、合計6つの類型に分かれます。

類型aは、難関国公立大学を志望する類型、類型bは、その他の国公立大学を志望する類型、類型cは、芸術や家庭科等の科目をより多く履修できる類型です。

私立大学を第1希望にする場合は、大学の難易度や受験科目・配点を検討して、所属する類型を選んでもらいます。

Q 1 7 高志中学校から進学した生徒（内進生）と高校入試を経て入学した生徒（高入生）は別クラスになるのでしょうか。【更新】

A 1 7 これまでは、1、2年次は別クラス、3年次は混合クラスでした。ここで言う「混合」とは、内進生と高入生が同じクラスで学校生活を共にするという意味です。

3年生になると選択科目が増え、大学受験の科目等、必要に応じて授業を選択して学習することになるので、同じクラスの生徒であっても別々の科目の授業を受けることになります。進度や難易度に応じた授業が同時に開講されるので、生徒によっては、生活をしているクラスから講義室や学習室等に移動して、他のクラスの生徒と同じ授業を受ける場合もあります。

Q15の回答にあるとおり、令和5年度の入学生から、学年進行で1年次から高入生と内進生を生活クラスで混在させる「混合クラス編成」を導入する予定です。

Q18 進路選択の時期がだんだんと早くなっている印象があります。1年の後半に理系・文系を選択していますが、大学受験の時に理系の生徒が文系を、文系の生徒が理系を希望する場合、そうした受験はできますか。

A18 県内外の多くの進学校同様、高志高校では1年次の後半に文理選択を行っています。（高志高校の場合は学科を選択することになります。）

過去に理系から文系へ変えて受験した生徒がいないわけではありませんが、実際には非常に困難な状況が待っています。たとえば、文系大学を受験する場合、多くは地歴・公民科目が二つ必要ですが、理系では受験科目として一つしか履修できません。従って地歴・公民のもう一科目は、自分でしなければなりません。

もちろん、そういう生徒が出てきた場合はサポートしていきますが、そうならないよう高校1年後期に行われる2年次からの学科選択（文理選択）の際には、十分自分の進路について考えてほしいと思います。

4 中高一貫教育

Q19 中高一貫になってどのように変わりましたか。【更新】

A19 一言で言えば、以前よりさらに多様な生徒の集団になってきています。積極的に意見を出し合ったり、異なる意見を受け入れたりして、一層活気ある学校になってきている雰囲気があります。生徒が学校生活に関する意見を集約して、学校生活を変えていくという動きが見られるようになりました。

また、他の高校にはない特徴として、中・高6年という年齢差のある集団で学校生活を過ごすという点からもたらされる状況があります。例えば、学校行事や生徒会活動等において、年齢の近い集団で意見交換するときには気づかなかった視点でものを考えたり、年齢の離れた人たちのことを思いやってみたり、自分たちの行動や行事、部活動を運営したりしようとする動きが生まれています。中高一貫校ならではのリーダーシップフォロワーシップが育まれています。

Q 2 0 内進生と高入生との融和はスムーズに行われるのですか。【更新】

A 2 0 最初のうちは、高入生と内進生という意識を多少は持つことがあるようですが、学校行事や部活動での交流を通して、少しずつ融和がはかられていきます。学年全体でのLH、部活動、学校祭等を通して、同じ高志高校生として協力し合って活動することで、両者とも生き生きと活動するようになります。

Q 2 1 運動部のグラウンドや体育館の使用は、中学生と共用になるかと思いますが、部活動時間等の制約はあるのですか。

A 2 1 限られた時間の中で、グラウンドや体育館を分け合っているため、多少の時間的制約があるのは事実ですが、大きな支障にはなっていません。参考までに、部活動の完全下校時間は、以下のとおりです。

完全下校時間 中学生 18時、 高校生 18時55分

一方で、高校生が中学生を教える場面もあることで、高校生が自主性やリーダー性を養うこともできるという、他の高校では見られない面がうかがえます。

Q 2 2 内進生と高入生の学力差は、どのくらいあるのでしょうか。

A 2 2 学力はひとり一人の個人に付随する性質のものです。内進生と高入生というように、集団を二つに分けて学力を比較することは適切ではないと考えています。

他の都道府県の中高一貫校に見られる一般的な傾向として、「内進生は中学校の3年間、中学・高校の6年間に学力に開きが現れるようになる。一方、高入生は、高校入試を経てある程度の幅におさまった学力層の生徒が入ってくることもあり、内進生ほどの学力差はない。」とされています。その傾向は、高志高校にも当てはまります。

Q 2 3 生徒会活動の中高連携とは、具体的にどのようなことをしているのですか。

【更新】

A 2 3 中学、高校それぞれの生徒会執行部や、各種委員会の正副委員長、正副生徒代議員長からなる生徒中央協議会を開催し、お互いの生徒会活動を理解した上で、合同での活動を考えたり、学校全体に関わる問題について意見交換したりしています。

中高生徒会での議論がもとになって、学校生活を取り巻くルールを変える動きが生まれています。令和3年度は具体的に校則改正の動きが出てきています。

5 生徒支援・学校行事・部活動等

Q 2 4 自転車通学の条件(許可される距離など)を教えてください。

A 2 4 原則として制約はありません。ただし、福井駅～本校間の自転車通学は許可していません。

Q 2 5 最近の災害状況を踏まえ、学校での災害時の対応はどうなっていますか。【更新】

A 2 5 台風や豪雨、大雪等の自然災害が発生した際、発生する恐れのある際には、緊急メールシステムで、生徒諸君・保護者に速報します。高志高校は一次避難所としての指定を受けていないため、食糧・水の備蓄はありませんが、自動販売機は災害時対応のものを設置しています。

災害発生時の「危機対応マニュアル」を整備し、万が一の際に教員や生徒がとるべき行動を定めています。毎年、避難訓練を実施するとともに、AEDの使用方法等についても、研修を行っています。

令和3年度は防災アドバイザーの指導助言を受けて、避難訓練や防災マニュアルの見直しをすすめているところです。

Q 2 6 スライドを見ると体育祭の色分けは3色だったように思うのですが、どのようにして色分けしているのですか。

A 2 6 以前は高校が各学年8クラスあったため4色に分けていました。ただし中学校は3クラスなので、各クラスの生徒を4色に分けていました。

現在は高校のクラス数が各学年7クラスに減り、3学年合計で21クラスと3の倍数になったので、色分けを3色にしました。色ごとの各学年のクラス数に差はできるのですが、色別の生徒数、男女比等に配慮しながら抽選をして、3色に分けるようにしています。

Q 2 7 普段、部活動はどのくらいできますか。【新規】

A 2 7 平日の部活動は、17時少し前から始まり18時35分に終了します。つまり、約1時間半の活動になります。活動時間は短いですが、集中して密度の濃い練習を心がけています。なお、平日は、原則週1回の休養日を設けています。

Q 2 8 部活動をしていないことで、よくないことはありますか。

A 2 8 生徒の中には、校内の部活動には所属せずクラブチームでの活動や校外でのボランティア活動などを行っている人もいて、部活動をしていないことが悪いというものではありません。

部活動に所属し、苦楽をともにするという経験があると、卒業後も思い出を共有し、強い絆を持つことができる可能性は、大きくなるのではないかと思います。

Q 2 9 勉強と部活との両立は可能ですか。何かアドバイスがあったら教えてください。
【新規】

A 2 9 年度当初の部活動の登録割合は、一人で複数の部に所属（兼部）している生徒もいるため、100%を超えています。多くの生徒が、部活動と勉強を両立しています。両立ができている生徒の共通点は、「部活動が終了したらすぐに下校する」、「家庭ではパソコンやスマホ使用の無駄な時間をなくす」など、学校生活・家庭生活ともにメリハリをつけ、時間を有効に利用していることがあげられます。

Q 3 0 文芸部の活動を教えてください。高志中学校との交流はありますか。

A 3 0 各自が創作した散文、詩、短歌、俳句等を週に1回持ち寄り、批評し合った後、リライトし、部誌に載せるというのが主な活動です。部誌は年2回発行しています。「文芸道場」「ジュニア文学カフェ」などの催しもあり、他校文芸部との交流も盛んです。高志中学校に文芸部はありませんが、部誌への寄稿が可能ですし、学校祭時に高校文芸部生徒との交流があります。全国高等学校総合文化祭（文芸部の全国大会）にも参加が可能です。

Q 3 1 陸上をしています。陸上部の活動について教えていただきたいです。

A 3 1 平日は4日間（木曜は休養日）、陸上競技の基礎的な技術練習中心に90分程度の練習をしています。土曜・日曜は活動1日（大会は別）、種目別専門練習及び記録測定を学校または競技場で行っています。雨天時、冬季は室内での筋力トレーニングが中心になります。

Q 3 2 野球部について教えていただきたいです。【更新】

A 3 2 3学年合わせて28名（女子マネージャー3名を含む）で活動しています。4月～10月は、水曜日を部活動休養日とし、土曜・日曜は大会、練習試合等が入るので基本的に活動日にしています。11月～3月は、水曜日と土・日のどちらかを休養日にしています。

平日練習時間は16時45分～18時35分。休日については、大会・練習試合の場合は1日、通常練習の場合は、半日の活動です。日々の練習は、時間と場所の制約の多い中、最大限の成果が得られるようにグループごとのローテーションメニューを組み、打撃練習、守備練習、トレーニングを行っています。

Q 3 3 ソフトテニス部が廃部になると聞いたことがあります、本当ですか。【更新】

A 3 3 そのようなことはありません。一般論として、学校規模が小さくなると、その学校らしい活気ある部活動を継続していくために、部活動の統廃合・復活等について議論されることがあります。

高志高校もその点では同じです。統廃合や復活を検討する上での基本的な考え方について議論はしていますが、具体的に何かの部を廃部にするというような議論は行われていません。

万が一、何かの部活動を廃部にするような場合には、前年度の夏までに中学生や保護者の皆様にお伝えし、そのことを理解していただいた上で入学してもらうようにいたします。

Q 3 4 高校に行ってもテニスが続けたいと思っています。軟式テニス、硬式テニス、両部活の雰囲気や活動内容、実績などを教えてください。【新規】

A 3 4 テニス関係の各部活動の入賞実績等は、以下のとおりです。

- ・男子ソフトテニス部 本年度の各種大会で団体ベスト8、個人ベスト16
- ・女子ソフトテニス部 本年度の春季総体で個人ベスト8、個人で北信越大会に出場
- ・男子テニス部 本年度の新人大会で団体第3位、過去には県大会で準優勝の実績も
- ・女子テニス部 昨年度の県民スポーツ祭、新人大会で団体第3位

どの部活動も、短い練習時間を集中して行うだけでなく、明るい雰囲気で行っています。

Q 3 5 中学校ではバドミントン部は休部になりましたが、高校は存続する予定ですか。【新規】

A 3 5 高校には、男女ともにバドミントン部があります。中学校は募集停止になりましたが、高校では現在のところ休部にする予定はありません。男子は、昨年度「県民スポーツ祭」(夏の県大会)において、3位に入賞しました。女子も含めて、バドミントン部は熱心に練習に取り組んでいます。

6 進学支援・合格実績等

Q 3 6 大学受験に向けた個別指導とはどのような内容か、具体例を教えてください。

A 3 6 例えば3年次に、生徒の志望大学別(東大・京大・難関大学・ブロック大学・地

元国公立大別)の特別講座を、長期休業中や大学入試センター試験の後などに行っていました。このうち、個別試験の比重の大きい大学については、1、2年次から大学説明会を実施したり、記述問題の個別添削指導等を実施したりしています。

令和2年度以降は、進学型単位制教育課程が適用されることから、授業での学習自体が志望校別の学習のような性格のものに変わり、さらに大学進学に向けた学習が充実することになりました。

小論文や実技、面接が必要な生徒には、その一人一人に担当教員を割り当てて指導しています。これは高志高校が県下で最も早く取り入れた指導方法です。

生徒が、個別試験の英語や数学などの問題等を自主的に解いて教科担任に提出し、放課後等にその添削指導を受けている姿は、本校においては、当たり前の光景となっています。

Q 3 7 大学推薦制度について教えてください。【新規】

A 3 7 推薦入試は、大学が定めた出願基準を満たし、かつ学校長の推薦を受けたものが出願できる制度です。令和3年度の大学入試から、推薦入試は「学校推薦型選抜」と名称が変わりました。大学が求める推薦基準をみたした生徒を校内の推薦委員会で審査し、学校として責任をもって出願を認める仕組みが「学校推薦型選抜」です。

「学校推薦型選抜」は大きく2つに分かれます。

一つは「指定校制」です。「指定校制」は大学が高校を指定して出願枠を設けるものです。合格したら進学しなければならない専願制で、私立大学を中心に行われています。高志高校には、首都圏、中京圏、関西圏の有名私立大学を中心に、毎年多くの大学から推薦依頼が届きます。公立大学からも数件の依頼が届きます。生徒の希望がなく、多くの大学に辞退届を送付しているほどです。

もう一つは「公募制」です。出願基準をクリアすれば、全国の高校から出願できるものです。国公立大の場合、出願の成績基準が高く、一つの高校から出願できる人数も制限されているのが普通です。選抜方法は、指定校制・公募制ともに、書類審査、小論文、面接を課すところが多いです。国公立大学を中心に、「大学入学共通テスト」を課す選抜も多くみられます。

Q 3 8 大学合格実績の表の中で推薦入試の実績はどの程度ですか。また、どのような指導をしていますか。【新規】

A 3 8 国公立大学に推薦入試で進学していく生徒は、学年の1割程度です。

国公立大学の「学校推薦型選抜」は簡単には合格できません。出願しても合格するのは、出願した生徒の3割程度に留まっています。出願する場合は「一般選抜」に向けた勉強に加えて志望理由書や活動報告書等の作成、面接・小論文対策などをしなければなりません。その分負担が重くなることを覚悟する必要があります。従って「受験機会が1回増える」からという意識での出願は避けた方が賢明です。「その大学で〇〇を学び

たい」「入学したら〇〇に取り組む構想がある」という明確な目標を持っている場合は、挑戦する意義があると考えられます。

「学校推薦型選抜」のうちの「指定校制推薦」については、毎年高志高校には、多くの大学・学部から指定校の依頼が来ています。一方で、「指定校制推薦」に出願する生徒はそれほど多くありません。出願大学も、早稲田大、明治大、関西大、関西学院大、同志社大、立命館大などの関東・関西圏の難関私大と一部の公立大に限られています。

なお、推薦入試に出願することを決意した生徒には、出願する大学・学部・学科の選抜の実態に合わせて、一人の生徒に一人以上の教員を割り当て、「志望理由書」等の書類作成、小論文、面接などの個別指導を行っています。

Q 3 9 土曜課外と土曜講座は、どう違うのですか。

A 3 9 土曜課外は普段の学習の補完や演習のほか模擬試験に向けた対策等を行います。年に6～7回程度、生徒全員参加で行っています。

土曜講座は、高い志をもって学習に取り組んでもらうために、大学入試問題やハイレベルな模試の問題などの、発展的な内容を扱う講座です。年に2回、希望生徒対象に行います。

Q 4 0 高志高校の卒業生はほとんどが大学に進学するという話ですが、大学卒業後の活躍の様子はわかりますか。

A 4 0 高志高校の卒業生は、大学や大学院を卒業した後様々な仕事に就職しています。毎年、卒業した社会人が母校に戻ってきて、在校生に仕事や大学での学問の話をしてくれますが、その顔ぶれは、様々な業種・職種に分かれています。

卒業生の中には、大学卒業後、福井に戻って会社を経営する方が多数います。また、外国で活躍する人、大学に残って教員・研究者となる人もいます。

Q 4 1 主な合格実績を教えてください。

A 4 1 進学実績についてはHPをご覧ください。

トップページの右上にある「高等学校のご案内」のメニューから、「進路指導」→「進路状況」とたどっていくと、過去3年間の合格実績を見ることができます。

Q 4 2 子どもは将来建築家希望ですが、それに向けてのご指導などありますか。

A 4 2 建築系をはじめとして生徒は様々な進路希望を持っています。その希望を実現するためには、それを専門的に学べる大学・学部に進学する必要があります。

そこで、本校では、生徒には1年次から大学のオープンキャンパスへの参加を促すとともに、3年次には希望の大学の入試に応じた特別講座等を開講し、生徒の進路希望の実現に努めています。

Q 4 3 国公立大学看護科への進学実績を教えてください。【更新】

A 4 3 2021年度入試では、のべ9名が受験し5名が合格・進学しています。進学先は、京都大学・筑波大学・金沢大学・福井大学・福井県立大学（各1名）です。

Q 4 4 芸術系の大学への進学実績を教えてください。【更新】

A 4 4 2021年度入試では、音楽系・美術系合わせてのべ8名が受験し6名が合格、うち5名が進学しています。主な進学先は、筑波大学、京都市立芸術大学、武蔵野美術大学などです。

本校は進学型単位制教育課程をとっていますので、芸術系の大学への進学を希望する場合は3年次にc類型に所属して必要な教科・科目を選択すれば、芸術系大学への進学に適した学習に取り組むことができます。

7 探究型学習、SSH、SGH

Q 4 5 SSHやSGHで育てようとしている力について教えてください。

A 4 5 高志高校は福井県で最も早くSSHに指定された高校として、これまで研究開発・実践を積み重ねてきました。課題研究を中心とした探究型学習により、主体性、問題解決能力、コミュニケーション能力等、社会で求められる力を育成しています。具体的には、次のような力です。

- 課題を見つける力、「問い」をたてる力
- 課題を解決する力、正解でなく、「納得解」「最善解」を見つける力
- 自分の考えを分かりやすく表現する力
- 他者との対話、議論を通して考えを深める力

Q 4 6 課題研究では、3年間でどのようなことに取り組むのですか。

A 4 6 課題研究の3年間は、概ね次のような流れをとっています。

- 1年次 探究活動のスキル等を習得する。
探究のサイクルを理解する。
課題研究をすすめるための情報処理の知識を学ぶ。
ミニ課題研究に取り組む。

本格課題研究のテーマを考える。

2年次 4人前後のグループ（個人の場合も）でテーマを設定し、課題研究を進める。

研究の途中経過結果等をポスターやプレゼンテーションにまとめる。

10月 選択型研修旅行で経過を報告する。

2月 課題研究中間発表会で発表する。

外部のコンテスト等に挑戦したり、学会で発表したりする。

3年次 2年次の研究を継続・発展させる。

研究成果を報告書・論文、英語レポート等にまとめる。

7月 課題研究最終発表会で発表する。

（高校での）「学びの履歴書」、（大学での）「学びの設計書」等を作成する。

Q47 SGHの研究指定が終わり、ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）事業の研究指定が始まっていると聞きました。WWL事業では、何を行いますか。【更新】

A48 WWL事業は、令和元年度から始まったグローバル人材育成をねらいとした文部科学省の研修指定事業です。

金沢大学附属高校を拠点校とした北陸3県のWWLコンソーシアムには、県立金沢泉丘高校をはじめとする石川県の数校のほか、富山県から県立高岡高校、福井県から高志高校が参加しています。

国際高校生会議の開催を視野に、同一の目的・テーマに対して、各高校の特色を踏まえた異なるアプローチで、課題研究を進める計画です。

毎年、「SDGsフォーラム」（仮称）を開催し、海外大学生を交えたワークショップを行うほか、グローバルな社会課題研究のカリキュラム開発を進める予定です。

なお、令和3年度から文部科学省のSGHネットワーク事業が始まっています。高志高校はSGHネットワークにも指定されており、グローバルな社会問題や地域課題の解決に取り組む課題研究ほか、グローバルリーダーを育てる取組を行っています。

Q49 学校行事や部活動のほかに、仲間と協力し合いながら何かをやり遂げる授業はありますか。

A49 SSHやSGHの課題研究は、まさに仲間と協力し合いながら自然科学の真実を追究したり、課題解決のための方策を考えたりする授業です。課題研究の授業に限らず、各教科の授業においても、ペアやグループ単位で活動する授業、仲間と協力してプロジェクトに取り組む授業に取り組んでいる教科・科目があります。

Q50 学校説明の中で、「SSHやSGH、中高一貫教育など、常に革新、挑戦を続けている」と言っていました。私たちが入学するときにも何か新しいことに挑戦するのですか。【更新】

A 5 0 全国で普通科高校の改革の必要性が叫ばれています。高志高校は、高校の新学習指導要領が実施される令和4年度の入学生から、普通科系専門学科「探究創造科」に移行します。目下、先生方は、新学習指導要領の趣旨の実現、教科指導や探究活動の質の向上の、中高一貫教育のより一層の充実を目指して、検討を重ねているところです。

一方、昨年度から、生徒会執行部を中心に生徒会活動の活性化や校則の見直しなど、自分達で自分達の学校生活を改善しようという動きが出てきています。今の中学3年生が入学する頃には、新しい校則が適用されている見通しです。

8 選択型研修旅行、国際交流

Q 5 1 海外研修・海外交流について聞かせてください。

A 5 1 これまでは海外8コース、国内2コースで実施してきました。内訳は以下の通りです。どのコースを選択しても、大学や高校との交流、研究機関や企業等での研修が体験できるように工夫しています。

サイエンス研修 アメリカ東海岸、アメリカ西海岸、オーストラリア、マレーシア、シンガポール、国内（首都圏）

グローバル研修 オーストラリア、タイ、ベトナム、国内（首都圏）

※令和2年度は、新型コロナの関係で中止しました。令和3年度は、クラス単位で生徒が研修先や研修内容を計画する「国内選択型研修旅行」を実施する予定です。

（10月実施予定でしたが、3月に延期しました。）

Q 5 2 海外の研修旅行について、令和4年度入学生も実施する予定ですか。【新規】

A 5 2 令和3年度の高校2年生は、国内選択型研修旅行を10月に計画していましたが、新型コロナの感染状況を踏まえ、来年の3月に延期しました。

令和4年度の入学生については、「選択型研修旅行」をぜひ実施したいと考えています。このことについては、日本だけでなく、受け入れ先の状況も関わってきますので、世界的に新型コロナが収束し、海外研修旅行が実施できることを願っています。

Q 5 3 2年次の海外研修（「選択型研修旅行」の海外コース）までに、英語のコミュニケーション力は身につくのでしょうか。

A 5 3 1年次から、実践的な英語コミュニケーション力を育成するための授業等を行います。4技能を総合的に高める英語学習に取り組んでください。

実際に研修旅行までに十分な力が身につくかどうかはケースによります。研修旅行中に失敗などを経験することが大きな刺激となり、その後の学習意欲につながったという生徒がこれまでにたくさんいました。

研修旅行は参加者のマインドを変える大きな行事ですので、積極的に参加してほしいと思います。

Q 5 4 2年次の研修旅行までの積み立ては月々いくらぐらいになりますか。

A 5 4 1年次の4月から毎月1万円を積み立て、2年の秋までに計18万円を積み立てます。研修旅行が終わった後にコースごとに経費を精算し、追加の集金や返金を行います。

Q 5 5 海外の人との交流はありますか。ある場合はどのような交流ですか。

A 5 5 選択型研修旅行のほかにも、海外の人との交流が盛んです。姉妹校がアメリカとタイにあり、定期的に日本にやってきます。外部の留学関係団体から依頼されて、外国人留学生を受け入れることにも積極的に取り組んでいます。

また、SSH事業の中で、日本にいる外国人研究者を招いて特別授業をしてもらうこともあります。これは、希望者対象です。

9 授業料、学納金等の経費

Q 5 6 入学後必要な費用について教えてください。

A 5 6 入学時に必要な費用は、教科書・教材、制服・体操服・シューズ、入学料などで、約12万円強になります。

授業料（9900円）については、両親の年収が約910万円未満の場合は、就学支援金の対象となり、授業料の負担はなくなります。

1年次の授業料を除いた学納金は、研修旅行の積立も含めて、月額約2万円です。

10 高校入試

Q 5 7 高校入試の募集定員、昨年度の合格平均点を教えてください。

A 5 7 募集定員は、令和3年度入試の場合160名でした。例年10月下旬に、県教育委員会から定員が発表されます。

合格平均点は、県教育委員会が非公表としているため、お答えできません。

Q 5 8 11月の「学力診断テスト」での目標点数を教えてください。

A 5 8 「学力診断テスト」についてのデータは、高校は知ることができません。過去のデータ等については、中学校の先生にお聞きください。

Q 5 9 高校入試の合否はどのように決まるのですか。【更新】

A 5 9 合否は5教科の学力検査と調査書に記載されている3年次の評定、その他の総合的な判定で行っています。総合点の1・2点差で合否が分かれる厳しさを判定されるのが、高校入試の現状です。

Q 6 0 高志高校が高校入試に「特色入試」が入ると聞きました。「特色入試」では、どのような生徒を求めていますか。【新規】

A 6 0 令和5年度高校入学者選抜において、高志高校は「特色選抜」を実施します。高志高校の「特色選抜」の概要は、以下のとおりです。

なお、出願要件や選抜方法等については、令和4年度に入ってから、改めて県教育委員会から公表される予定です。

○目的 秀でた才能や得意な教科、志望学科に対する適性や強い意欲を持つ生徒を対象とした特色選抜を実施し、各校の特色化や魅力化を図る。

○学科・募集人員 探究創造科4名程度

○導入時期 令和5年度入学者選抜（現中学校2年生対象）

○実施種目・領域 「探究」

○求める生徒像

- ①高い学力を有し、将来の夢に向かって主体的に学び続ける意欲がある者
- ②自ら課題を設定し、他者と協働して、より良い社会の実現ために探究しようとする意欲を持つ者
- ③中学校3年間で、理数や英語の分野における、下記の大会・コンテストへの出場や資格・検定の取得に向けて、積極的に挑戦し成果を得た者

（例）

〔大会・コンテスト〕

「ふくい理数グランプリ」、「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」、「日本ジュニア数学オリンピック」、「科学の甲子園ジュニア」、「ジュニアドクター養成塾」、「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」等

〔資格・検定〕

「実用英語技能検定」2級合格程度（CEFR B1程度）の英語力を有する者
「実用数学技能検定」準2級 等

Q 6 1 先生の在籍期間はどのくらいですか。(進路支援に優れた実績のある先生に長く指導してもらいたいの)

A 6 1 異動がない私立高校に対して、県立高校の先生方には異動があります。福井県の県立高校では、概ね7年から10年を経過した先生方が異動の対象となります。

高志高校や藤島高校のような進学校では、担任や進学支援の継続性を考えた人事異動が行われています。

学習支援、進学支援の継続性は、進学校にとってとても重要な話です。

高志高校には、授業名人やふくい優秀教職員を始めとして、指導主事の経験者や県外進学校派遣経験者など、優れた先生が多数在籍しています。高志高校、高志中学校の先生方は、高校と中学校の両方の辞令を受けており、校種を超えて授業を担当したりしています。そうした経験をいかして、大学受験を常に念頭に置いて学習支援を行っています。

※高志高校では数年前から「指導」という言葉の代わりに「支援」という言葉を使っています。「学校の主役である生徒の、学習、特別活動、進路実現に向けた取組、探究活動を支援するのが教員の仕事だ」という考え方に立っているからです。

先生方の校務分掌も「進路支援部」「生徒支援部」「研究支援部」という名称になっています。

Q 6 2 この先また、コロナ等で学校が休校になった場合、リモート授業はできますか。
【新規】

A 6 2 全生徒に一人1台のタブレットが貸与されています。また、全教室・講義室のネットワーク環境が整備されています。

新型コロナで学校が臨時休校になる場合は、生徒がタブレットを自宅に持ち帰り自宅で授業を受けることができる体制になっています。ただし、タブレットはインターネットに接続していないと各種のアプリケーションが使えないので、家庭でのWi-Fi環境の整備をお願いしているところです。

なお、特定の生徒が新型コロナその他の感染症等により出席停止になる場合は、教室での対面の授業を実況中継するなどして、オンラインの家庭学習支援を行っています。

「生徒の学びを止めない」ために、本校では、対面とオンラインのハイブリット授業、動画配信等、様々な方法を用いて、生徒の学習を支援しています。

Q 6 3 新型コロナウイルスの感染で学校行事の実施等大変だと思いますが、どのような対応をしていますか。

A 6 3 何もしないで、自粛・中止の判断を下すことは簡単ですし、批判を招くこともないかもしれません。しかし、学校行事や部活動等の教育的意義はとても大きく、学校に来ることで、友達と一緒に取り組むことで育てることのできる資質・能力も、きっとあると思います。

高志高校では、感染症対策に配慮しつつ、行事の実施方法等を工夫して学校行事を実施しようとしています。

Q 6 4 説明を聞いて素晴らしい学校だということはわかりましたが、その分、学校生活が続けるのも大変なのではと思いました。実際のところ、他校に転校したりして学校を去っていく生徒はどのくらいいますか。【新規】

A 6 4 高志高校は毎年、卒業生実数・進学先等を浪人した生徒も含めて実数を公表しています。

入学した生徒数とその学年の卒業生の生徒数を比較すると、卒業生の生徒数が少ない場合があります。一家転住による転学のほか、毎日出席して一定以上の学力を身に付けることで進級、卒業していくという全日制高校のスタイルに適応が難しい生徒が、広域通信制の高校に転学していく場合があります。

Q 6 5 いじめは多いですか。【新規】

A 6 5 学校も小さな社会ですので、今年度も小さなトラブルはときどき起こっています。しかし、総体的にはとても穏やかな学校です。深刻ないじめの事例はありません。

保護者の皆様のご意見・ご感想

【すべて令和3年度の感想に更新】

・説明会ありがとうございました。高校選択に悩んでいた息子ですが、挑戦したい！と前向きな決意をして帰ってきました。勉強しなくては…！と前向きにさせてもらえたみたいで感謝です。受験に向けての経過も大事だと思い志望校が決まった今、後悔ないように子供の背中を押そうと思います。結果が出るように前進する時間を大切にします。

・説明会、大変わかりやすく子供のことを大切にしてくださる学校だと感じたのが一番の感想です。子供自身が決めるのはもちろんですが、家族みんなで受験を応援しようと思いました。そして、高校三年間、子供自身が成長できる学校に入学できることを改めて願う時間になりました。このご時世ですが、学校説明会を開いてくださりありがとうございました。大変、参考になりました。

・ 質疑応答でもあったように、高志中からの生徒との学力差が気になるころですが、志の高い環境で良い影響を受けて成長するためには貴学の学習方針は素晴らしいのだろうなと感じました。

・ 大人になった今、この学校に通ってみたいと思いました。自分の視野や可能性が広がると感じたからです。でも、今、自分探しの真只中、何の目的も分からない中3の子ども達が真の目的を持って学校選びをするのは難しいことだと思うので、いかに高志高校の良さを伝えるかが難しいなと、思いました。

・ 生徒の主体性や発信力を大切にすることは共感しました。しかし、授業の進むペースについていけるのか心配にもなりました。

・ 先進的で生徒のやりたい事をアシストして下さるとても素晴らしい学校だと感じました。動画や熱く丁寧に語られる先生方の説明会の内容はとても良かったです。保護者からの質問時間も十分にあり丁寧に答えて下さっていました。リクエストは、説明会場の食堂しか見ることができなかつたので、学校内の他の施設、場所も『校内見学ツアー』のように見てみたかったです。動画の音声が多重で聴き取りにくかったです。

・ 伝統の校風がずっと続いていることがうれしいです。

・ コロナ禍ですが、保護者も参加させていただける機会を設定していただき、ありがとうございました。学校の方針など具体的に知ることができ大変有意義でした。子どもも実際に足を運び、教室の中で先生や先輩のお話を聞くことができ、受験に対する意気込みが増したようです。本日はありがとうございました。

・ 一人ひとりの個性を伸ばす、熱心な教育方針だと思いました。自分の目標とする進路に合わせて科目を選択できるという点に魅力を感じます。ただ内進生との差というのはやはり気になりますし、受験して入学する子どもたちには不利な所が出てくるのでは？と心配になります。高校生活のその先を考えると、高志高校はとてもいい学校かなと思います。

・ 食堂で説明会だったが学校内の施設なども見学したかった。[ほかにも多数]

・ 校長先生をはじめ、代表者のご説明にとても感心しました。今の時代に活躍していく人間となるべく、子どもには、青春の3年間を有意義に高志高校にて過ごしてもらいたいと感じました。本当にありがとうございました。

・ 今日はお忙しい中ありがとうございました。保護者の方からの質問に対する先生方の返答が素晴らしかったです。このような先生方から、ご指導を受けられる生徒さんたちは幸せだと羨ましく思いました。入学させていただきたいという気持ちをますます強くした次第です。

・ 教育課程がどう変わるかを知ることができました。子どもがやってみたいと思っていたことが、SSHやSGHなどを通して勉強できそうです。お忙しい中ありがとうございました。

た。新しい取り組みを積極的に取り入れながら、生徒一人一人の学習力と探求心を育ててくれる学校だなと思いました。

- ・教育課程を詳しく聞きたかった。高入と内進の教育課程の差、交わるならどのような教育課程になるのか資料を元に話を伺いたかった。生徒の自主性を尊重して伸ばしていく方針に、信頼関係を感じました。選択型研修旅行が、他の学校ではできない体験ができて、親は興味があるのですが、娘は普通の修学旅行が良いらしく。その点のみ親子の感想が分かれました。

- ・校長先生の話聞いて、子供一人一人を大切に思っている気持ちがすごく伝わりました。

- ・大学進学に向けての取り組みが素晴らしく、娘にはよく考えて選ぶように伝えました。パンフレットやHPでは把握できない所まで説明いただきとても有意義な説明会だったと思います。特に質疑応答では、的確なご回答を頂けたので高志高校の魅力を更に感じる事ができました。

- ・幾つかの高校の説明会を終えましたが、親としてはぜひ高志高校で学んで欲しいという思いです。ただ、今回も倍率高そうですね…。自信を持って受験ができるように、しっかりサポートしていきたいです。本日はありがとうございました。

- ・今回の説明会で先輩の話聞いてより前向きになれたと子供は言っていたのでとてもいい説明会だったと思います。ありがとうございました。

- ・説明がわかりやすかったです。まだ、内部進学生と高校入学生との学習差が縮まるのかは説明を聞いても不安は残りました。

- ・説明会で校長先生が、内進生も高入生もどちらも高志高校の生徒です。とおっしゃられていたのが印象的で、そうであって欲しいと思います。

- ・参加者が想像以上にたくさんいらっしゃってビックリしました。一般企業と連携してAIの授業等に取り組みされていて、息子がこちらに通えるようになるといいなあと思いました。

- ・やはり手元に資料があった方が個人的には分かりやすいと思いました。

- ・先生方の丁寧な説明をお聞きして、生徒1人ひとりの将来の目標に寄り添ってくださる高志高校で是非学んで成長して欲しいと思いました。

- ・食堂に入ったのが初めてでした。食堂を見れてよかったです。普通科廃止で、変わり目の学年になるので、入試敬遠の傾向も聞かれますが、子どもも新たなる高志に期待していますので、合格できたらいいなと思います。中学生と一緒に生活するという実感を得ました。ありがとうございました。

・現在の学力に合わせた志望校を選びがちですが、お話をお聞きして、高校の先にある将来に向けての教育が充実していると感じました。子供が本当に何を学びたいか、そしてどんな仕事を希望しているのか、良く考えねば…と思いました。

・学習と探究をミックスさせた、バランスの良い学習ができることに魅力を感じました。丁寧な説明会でした。ありがとうございました。

・吉田校長先生のお話を聞き、子供が行きたいと言うだけでなく、親が通わせたいと思う高校だと感じました。

中学3年生の皆さんのご意見・ご感想（抜粋）

【すべて令和3年度の感想に更新】

- ・先輩と話して、明るい方で楽しかったです。
- ・今まで思っていたよりも親しみやすい学校だと感じ、印象が変わりました。課題研究など自主的、能動的な活動が良いと思いました。
- ・高志高校の魅力がよく分かり、文武両道ができるとても楽しい学校なのだろうなと思いました。勉強のやる気にもつながりました。ありがとうございました。
- ・先生方や先輩方の話を直接聞ける時間がいい刺激になりました。先輩方が頑張っていることの一つである部活動を少しの時間でも見学がしたかったです。
- ・先輩方の説明が分かりやすく、また交流の機会もあったので、楽しかったです。
- ・高志高校の事がよくわかりました。会う度に在校生の方々が挨拶をしてくれて、良い校風だなあと感じました。
- ・同じ中学の先輩にホームページやパンフレット以外の学校生活の話をも直接聞いたのは、とても貴重でよかったです。
- ・いろんなことが知れてとても良かったです。とても面白そうで、頑張って受験に合格し入学したいと改めて思いました。
- ・学校生活は面白そうだった。部活動の様子を見学出来ると良かった。
- ・私は御校が文科省のSGH、SSHどちらにも指定されていることから国際的視野での取り組みを多く行っているところに魅力を感じました。また修学旅行が無く、選択型研修旅行で、日本国内の企業、更には海外にまで本格的に目を向けていることは、数々の

オープンスクールに参加してきて唯一だと思いました。自分の学校出身の方の話を聞いて様々な事について分かりやすく知ることが出来ました。ありがとうございました。

- ・ 理系志望なので、入学できるように頑張ります。
- ・ 先輩方が優しく高志高校の魅力を教えて下さってとても良かったです。この学校で勉強したいので、頑張って受験したいと思います。[同様の感想が多数]
- ・ 高校生が質問に、分かりやすく丁寧に答えてくれたのが良かったです。 学校生活が楽しそうだと思います。
- ・ 参加して生徒の様子がよく伝わりました。勉強と部活動を上手く両立していたのでさすが高志高生だと思いました。先輩方の参考になる意見が多く聞けたので、意見交換があって良かったです。
- ・ 説明会に参加してみて、ますます高志高校に入りたくなったので、勉強頑張ります！今日はありがとうございました。
- ・ 中学三年間科学部に入部していたので、科学系の活動がさかんな高志高校にぜひ入学したいです。
- ・ 内部進学生の存在が良い刺激になると感じた
- ・ 写真や動画等を見ながら先輩方の学校生活をわかりやすく説明して下ったので、より高志高校への興味が深まりました。
- ・ 勉強についていけるかが心配ですが、今はまず、やれる事をしっかりやって合格を勝ち取りたいと思います。
- ・ 高志高校はなんとなく堅そうな雰囲気かなと思っていたけれど、勉強と生活などメリハリもしっかりとしていて在校生のお話が聞けて良かったです。 受験の日まで一日一日、後悔のない日々を過ごそうと思います。 本日はありがとうございました。
- ・ 生徒が主体的に取り組める環境が整っていていいと思いました。
- ・ 同じ中学校出身の先輩とお話することができ、非常に楽しい説明会でした。また、分からなかったことや知りたかったことに詳しく答え、説明して下さったことで、高志高校の事がよく分かりました。
- ・ 予習や復習などで学習は少し大変そうだけど、部活動やSSH、SGHなどの自分から進んで行う学習はとても楽しそうだなと感じました。また、先生方に質問しやすい環境

が整っているので、学習がはかどりそうだなと思いました。高志高校は自分にあった学校だなと思いました。

- ・ 質問カードが用意されていて、気軽に質問できた。
- ・ 大学進学、校則、高校の授業について詳しく知れてよかったです。
- ・ たくさんの研修や校外学習があると知り、この高校は生徒たち一人一人の能力を伸ばそうとしてくれるのだと分かりました。
- ・ 高志高校のいろんな魅力がわかってとても良かったです。是非通いたいと強く思いました。
- ・ 先生も生徒もとても詳しく説明をしてくださり、とてもわかりやすかったです。高志高校の良いところを沢山知ることができ、今日、進路選択への大きな一歩を踏み出せたと思います。ありがとうございました。
- ・ 高校生活を送る先輩方がどのように過ごされているのか本当の声が聞けたので、想像する事ができ大変参考になりました。
- ・ 高志高校のことがわかり、高校選びの参考になりました。ありがとうございました。先輩の話聞いて、受験に向けてもっと頑張ろうと思いました。